

週刊

こんにちは日本共産党です 八千代市議団ニュース

堀口 明子 ☎(752)0453 植田 進 ☎(487)9754
いはら 忠 ☎(488)7207

発行
日本共産党
八千代市議会議員団
八千代市大和田新田
312-5
☎(483)1151

市民生活破壊の新年度予算案を糾弾

新年度予算案は、開発・ハコモノによる借金の付けを市民に負担させようというものであり、国の悪政とともに市民に耐え難い負担増のオンパレードとなっています。しかも、市民への周知という点でも、それぞれの団体などが市の補助金・交付金を前提に新年度の事業計画を立てているのに、これらを見捨てるかのように削減するなど手続き上も大問題であります。

☆縮小された主な事業

市民活動団体1%支援金	400万円⇒200万円に、上限10万円まで
高齢者インフルエンザ予防接種	自己負担 1000円⇒1500円に
葬祭費	5万円⇒3万円
短期人間ドック利用助成金	15000円⇒5000円

☆廃止された主な事業

ふれあいプラザ団体送迎用バス	1675万円
高齢者等配食サービス費助成金(1食300円)	3974万4千円
集会施設管理運営補助金(電気代の70%分)	1135万8千円



☆新たな市民負担となるもの

時間外保育料	1080万円
学校開放体育館使用料(電気代相当分)	1000万円
総合運動公園駐車場使用料	980万円
その他、国民健康保険料 3億9千万円、介護保険料 6億1千万円、下水道使用料 1億円など 13億8千9百万円	市民一人当たり 7160円、4人家族で 28640円もの負担増となる。

近隣市との比較で、歳入で過少見積り疑いの疑惑

近隣市との若干の比較をしてみると、八千代市の積算には、歳入で過少とも言える費目があり、決算の段階で多額の剰余金が発生する可能性を否定できません。逆に言うと、赤字で大変と市民を脅かし、負担増を押し付けたのではないかと思えます。

市税の伸び率では、八千代市 0.5%、習志野市 1.6%で仮に習志野市並みの伸び率となれば、2億5千万円のさらなる増となり、地方消費税では、八千代市が31%、習志野市が55%で、ここでも3億7千万円の新たな歳入増となるのです。

合計で6億2千万円の増となります。

さらに、国民健康保険の保険給付費が、八千代市は対前年度比 13.8%の増となっているが、習志野市は、0.4%の減と積算。習志野市並みとなれば、保険給付費の11億8千9百万円の増は軽減できるのではないか、保険給付費の異常な伸びが何故生まれるのか、市には市民への説明責任が求められます。